下顎骨に発生した脂肪腫の1例

鏡内 肇・平沼 勉・占部 一彦
北村 龍二

A case of intraosseous lipoma in the mandible

KAGAMIUCHI Hajime・HIRANUMA Tsutomu
URABE Kazuhiko・KITAMURA Ryuji

Abstract: Intraosseous lipoma is a very rare benign tumors arising in bone. Few lipomas of the jaw bones have been reported in the literature. We describe a case of intraosseous lipoma occurring in the mandible of a 35-year-old man.

Key words: intraosseous lipoma (骨内脂肪腫), mandible (下顎骨)

緒 言

脂肪腫は軟部組織に発生する良性腫瘍中、血管腫とならんで多い。しかし、骨に発生する脂肪腫は全骨腫瘍の0.1%であり¹⁾、非常にまれであるとされている。今回、われわれは下顎骨内に発生した脂肪腫を経験したので文献的考察を含めその概要を報告する。

症 例

患 者：35歳、男性。

初 診：平成13年7月■日。

主 訴：左側下顎部の疼痛。

現病歴：平成13年7月初旬、左側下顎臼歯部に咬合痛、自発痛を自覚し、数日で症状は消失したが気になったため、同年7月■日近歯科医院を受診した。同歯科医院でのパノラマX線写真にて左側下顎臼歯部の透過像を指摘され、精査目的に当科を紹介され来院した。

既往歴・家族歴：特記事項なし。

現 症：初診時、左側下顎臼歯部歯肉には発赤・腫脹は認められず、また、同部の圧痛も認められなかった。下唇からオトガイ部の知覚異常の訴えはなかった。

画像所見：パノラマX線写真にて左側下顎小臼歯部に辺縁不整な単胞性透過像が認められ、透過像と「4 5」との歯根膜の連続性は認められなかった。また、透過像上方に

はオトガイ孔が認められた(写真1)。CT所見では左側下顎骨内に楕円形のLow-densityを呈する病変を認め、その周囲骨の骨欠損はなかった(写真2)。

処置および経過：平成13年8月■日下顎骨良性腫瘍の診断下、左側下顎小臼歯部頰側オトガイ孔近心部の骨を開削し生検を行い、脂肪腫の疑いと病理組織学的診断を得た。同年9月■日全身麻酔下にて腫瘍摘出術を施行した。生検時の骨開削部より骨削除を行い、腫瘍を摘出した。腫瘍の骨面よりの剥離は容易であり一塊として摘出できた。摘出標本は約25×15×10mm径大の脆弱な軟組織であり、近心側は黒褐色(生検時の出血と思われる)で遠心側は黄色を呈していた(写真3)。生検時に骨の開削を行った部分以外に骨欠損あるいは骨の菲薄な部位はなかった。オトガイ孔付近まで腫瘍の増大があったが、オトガイ神経との癒着は認められなかった。術後の経過は良好で術後8日目にて退院となった。現在、術後1年2か月が経過しているが、腫瘍の再発は認められず、術後に左側下唇からオトガイ部にかけて認められた知覚異常は軽快している。

摘出標本病理組織学的所見：成熟した脂肪細胞の増生や出血を伴った線維性組織が認められた。腫瘍細胞の異型性や悪性を示す所見は認められなかった(写真4)。

病理組織学的診断：脂肪腫

考 察

脂肪性骨腫瘍は(1)軟部の脂肪腫が二次的に骨に浸潤または圧迫するもの(2)骨膜と関連をもって発生する骨旁脂肪腫(3)骨内より発生する骨内脂肪腫(4)骨内より発生する骨内脂肪肉腫に分類される²⁾。本症例においては

労働福祉事業団関西労災病院歯科口腔外科

(主任：北村龍二郎)

Department of Dentistry and Oral Surgery, Kansai Rosai Hospital (Chief: KITAMURA Ryuji)

受付日：2001年12月19日

採択日：2003年3月18日

写真1 パノラマX線写真
左側下顎小白歯部に辺縁不整な単胞性透過像を認める。

写真3 摘出標本
生検時によると思われる出血を伴った脂肪組織様の黄色の脆弱な組織であった。

写真2 CT像
左側下顎骨にLow-densityを呈する病変を認める。

写真4 病理組織像(H-E染色, ×50)
成熟した脂肪細胞の増生や出血を伴った線維性組織を認める。

表1 顎骨内脂肪腫の報告例^{1, 5, 6)}

症例	報告者	報告年	年齢	性別	部位	臨床症状
1	Viard	1850	不明	不明	上顎骨	不明
2	Triquet	1851	不明	不明	上顎骨	不明
3	Oringer	1948	37	女	下顎白歯部	疼痛
4	Newman	1957	65	男	下顎白歯部	無症状
5	Salzerら	1965	44	不明	上顎骨	腫脹
6	Johnson	1969	21	男	下顎白歯部	疼痛
7	Polteら	1976	39	男	下顎白歯部	知覚異常
8	Lewisら	1980	56	女	下顎白歯部	無症状
9	Millerら	1982	51	男	下顎白歯部	無症状
10	Heirら	1983	43	女	下顎枝	疼痛
11	Barkarら	1986	53	女	下顎白歯部	無症状
12	Toら	1991	66	女	上顎結節	疼痛
13	小網ら	1995	59	男	下顎前歯部	腫脹
14	Sakashitaら	1998	17	男	上顎白歯	無症状
15	自験例	2001	35	男	下顎白歯	疼痛

生検時の骨開削部以外に骨欠損や骨の菲薄部がなく、また悪性所見は認められなかったことより下顎骨内原発の骨内脂肪腫と考えられた。

骨内脂肪腫の成因について種々の考え方がある²⁾。(1) 脂質代謝異常：全身性に多発し、なんらかの全身症状の出現が予想される。しかし、本症例ではそのような症状はなかった。(2) 骨折後の骨髄内仮骨の脂肪変性：本症例では外傷および顎骨骨折の既往はなかった。(3) 慢性の骨梗塞：長管骨骨端に比較的発生しやすいことより、慢性の骨梗塞により骨が変化し脂肪腫が発生する。(4) 局在性の骨萎縮：骨萎縮が脂肪腫においてみられることより局在性の骨萎縮により発生する。(5) 真の良性腫瘍。本症例においては(3)(4)の可能性については否定できないが、病変が骨内に境界明瞭な塊として存在していたことより(5) 真の良性腫瘍と考えるのが妥当であると思われる。

諸岡ら³⁾は骨内脂肪腫は大腿骨、脛骨、腓骨、踵骨、腸骨、上腕骨などに多く発生し、長幹骨の骨端、骨幹端に多い傾向があると述べている。骨内脂肪腫の顎骨での発生は非常にまれとされており⁴⁾、われわれの渉猟しえた限り、1850年の最初の報告より自験例まで15例の報告^{1, 5, 6)}が認められたのみである(表1)。これら15例の顎骨骨内脂肪腫についてまとめると、男性7例、女性5例、不明3例であり、性差はないものの、発生年齢としては、30歳台から60歳台に多くみられ、青壮年期に好発すると考えられた。また、発生部位は下顎10例、上顎5例であり、下顎、特に下顎臼歯部が好発部位と考えられた。臨床症状としては疼痛5例、無症状5例、腫脹2例、知覚異常1例、不明2例であり、疼痛や腫脹などの何らかの臨床症状があることにより発見される場合が大半であるが、一方では、無症状に経過し、X線写真にて偶然に発見される場合も少なくない。X線所見では一般的に限局性の骨透過像を示し、鑑別診断としては他の顎骨腫瘍、歯根嚢胞、静止性骨空洞、顎骨嚢胞、骨髓炎、OBMD (Osteoporotic Bone Marrow Defect) などが挙げられる⁷⁾。また、Sakashitaら⁶⁾は病理組織学的には本症とOBMD、高分化型脂肪肉腫との鑑別が必要となり、赤色

骨髓の有無および細胞の異型性により鑑別可能であると述べている。本症例においては赤色骨髓が認められなかったことや腫瘍細胞の異型性は認められなかったことより脂肪腫との病理組織学的診断を行った。一般的に治療法としては摘出ないし搔爬術が施行されており、顎骨内に発生した本腫瘍においては再発の報告はない。しかし、脛骨・腓骨・大腿骨において臨床的または生検による悪性腫瘍との診断のもと腫瘍切除が行われ、術後の病理組織学的検索において脂肪腫が悪性化した可能性を示唆する所見があったとの報告⁸⁾がある。このことから、本腫瘍の治療に際しては十分な摘出ないし搔爬術および術後の慎重な経過観察が必要と思われた。

結 語

今回、われわれは非常にまれな下顎骨内に発生した脂肪腫を経験し、若干の文献的考察を加えて報告した。

引 用 文 献

- 1) 渡辺省二, 真鍋昌平, 他: 上腕骨近位部に発生した骨内脂肪腫の1例. 整形外科 36: 1841-1844 1985.
- 2) 田場弘之, 中島啓雅, 他: 腰椎棘突起に発生した孤立性原発性脂肪腫の1例. 臨整外 13: 74-77 1978.
- 3) 諸岡孝明, 石西 滋, 他: 上腕骨に発生した骨内脂肪腫の一例. 整形外科と災害外科 47: 511-513 1998.
- 4) 石川悟郎, 秋吉正豊: 口腔病理学Ⅱ. 第2改訂版, 永末書店, 京都, 1989, 572頁.
- 5) 小網達矢, 西嶋 寛, 他: 下顎骨に発生した脂肪腫の1例. 日口外誌 41: 875-877 1995.
- 6) Sakashita, H., Miyata, M., et al.: Intraosseous lipoma in the maxilla. Int J Oral Maxillofac Surg 27: 63-64 1998.
- 7) Sa'do, B., Ozeki, S., et al.: Osteoporotic bone marrow defect of the mandible: report of a case diagnosed by computed tomography scanning. J Oral Maxillofac Surg 50: 80-82 1992.
- 8) Milgram, J.W.: Malignant transformation in bone lipomas. Skeletal Radiol 19: 347-352 1990.